（大正十二年四月十五日第三種郵便物認可）

京都帝國大學新聞

月二回発行
一部五錢郵送料五厘
一年一圓郵送とも
廣告料
一段一回金五十錢
一段一年中一回金五圓
一段一年中一回金十圓
一段一年中一回金二十圓
一段一年中一回金三十圓
人目欄
日時欄
編輯兼發行人　山田雄
所在地　京都帝國大學
發行所　京都帝國大學新聞部
電話　東一〇八九・三三七〇・九八〇

今夜朝日會館で大講演會を開催

力强く百萬市民によびかける學友會共濟部の活躍

▼挨拶　德長松井元興
▼日支交渉と今後の日露關係　各學教授　末廣重雄
▼學生事業　大野熊雄
▼京大學生生活　黒澤治郎　野崎磯治
▼颱風の話　田中寿一

永井柳太郎氏來らん

二十日ごろ大獅子吼

學内大會

下旬ごろ開催

文學部諸學會のプログラムきまる

京大クラブ大會追報

明治節拜賀式

天文學の實用

價値を問ふ

花山天文臺を視察した滿鐵總裁松岡洋右氏

神道史料展同時に開く

十龍氏の特別講義

各國憲行制度論

法學部の特別講義

「立法の實際」

圖書館長更迭

顯微鏡下に現はれた日本刀と甲冑の優劣

來る十日夜高津講堂で宇野傳三教授の講演

すでに何人

就職がきまつたか

東方文化の念講演

西域繪畫資料展も開く

滿洲國大同學院の試驗は四日から

全體で百名を採用する

同好會の大阪見學

取引所その他

卒論注意

發表さる

研學に屍體を捧げた人々の霊を祭る

一日黑谷本山に於て

文學部

日本ゲーテ協會

三日大會をひらく

CORONA STANDARD
新製品！新機構！
小型軽快ノポータブル
而カモ機能ハ大型事務用機ニ匹敵
英、佛、獨、露、各國語
數、化、工學用等
凡ヲ完備
京都市寺町　文適堂　黒澤商店
電話上1004

道と自然
東京帝國大學教授　永井潛博士著
最新刊　菊判四三〇頁　上製函　四圓　送料十錢

ひとむかし　隨筆集
長谷川如是閑氏著
最新刊　菊判三五〇頁　上製函　一圓五〇錢　送料十錢

時・處・人　隨筆集
子爵岸田國士著
最新刊　四六判三五〇頁　上製函　一圓五〇錢　送料十錢

現代歌人論
岡山巌著
最新刊　四六判三四頁　上製函　一圓五〇錢

人文書院
疾病療養　自隱禪閑話　醫學博士　中野重治著
郷愁　それからそれへ　逆　文明と狂想
富田砕花著　無用の用
井上古天著
博士　岸田國士著

三省堂の好評重版圖書！
三省堂コンメンタール叢書
親族法　東京帝國大學教授　野上久幸著　定價二圓五〇錢
破産法　前野順一著　定價二圓五〇錢
借地法・借家法　薄根正男著　定價一圓八〇錢
古典と古語　安藤正次著　定價三圓七〇錢
芭蕉の全貌　萩原蘿月著　定價六圓〇〇錢
近世時樣風俗　齋藤隆三著　定價四圓五〇錢
佛陀の教說　渡邊楳雄著　定價四圓八〇錢
言語學方法論考　小林英夫著　定價六圓〇〇錢
西洋近世史學史　千代田謙著　定價四圓〇〇錢
東京帝國大學教授　東京帝國大學教授　東京帝國大學教授　東京帝國大學教授　東京帝國大學教授　東京帝國大學教授　東京帝國大學教授
三省堂
東京神田神保町
大阪西區阿波座
最新日本歷史年表
最新世界年表
定價二圓〇〇錢

内外時事

井上吉次郎

伯林オリムピックとナチス政策

深山杲

今夏伯林に開催された第一回國際スポーツ醫學會議並に第十一回オリムピックに參加のため、シベリア經由でドイツへ旅立つた私は七月十五日の朝早く恙なく伯林のツオー驛に到着した。

晴れの大會を二週間の後に迎へる伯林市は既にオリムピック氣分に滿ち／＼て街中至る處に五輪の大會旗と萬國旗が交錯し、宛らお祭騒ぎのやうな興奮と感激に先づ私の目を驚かせた。

この空氣、此の光景は前回羅府オリムピックに參加した際には到底感じることも見ることも出來なかつた程、素晴らしいものであつて、一見して、今回のオリムピックが從來の慣例通り單に一都市伯林だけが主催の任に當つてゐるのではなく、獨逸が擧國的に、いひかへればナチスが全力を擧つてその主催に協力してゐる有様が如實に認められたのである。

御承知の通り、オリムピックは國民外交或は國際親善の機關としては最大最適のもので、現に今回も五十二ヶ國數千名の各國選手、役員が伯林に集合して數週間に亘る團體生活を續けたのである。

特に大會を主催する側にとつて大會が成功するかしないかは眞に重大問題で、若し萬一、大會が不首尾に終れば忽ち世界の隅々までも主催都市、ひいては主催國の悪印象が喧傳されるし、反對に大會が好都合に終始すれば全世界に主催國の好印象が限なく擴がるのである。

賢明なヒットラーが巧みに此の好機をキャッチして思ふ存分得意のナチス政策を縱横に振廻し、此度大會の成功を期したのも宜べなるかなである。

先づ大會々場である新裝の國立競技場を訪れると、何人もその豪壮な規模、廣汎な施設に思はずアッと驚かされる。然も此の工事に又その工費にオリムピック税の收入金が少からず注がれてゐると聞いては獨逸でなければ出來ない事業と二度ビックリを禁じ得なかつたのである。過去四ヶ年ドイツは國内のあらゆるスポーツ競技會の入場料に必ず相當率のオリムピック税を附加して資金收入を圖つたのであるが、此の制度はオリムピック記念郵便切手にも行はれてをり、例へば四ペニヒのオリムピック記念郵便切手は税金三ペニヒと合せ計七ペニヒで賣ることに……

感銘深く讀んだ本

或は大學生に薦むる書

思索に耽り讀書の暇なし

荒木貞夫

逆に教へを！

齋藤五郎

「武德論」

武田豐四郎

翻譯中の一書

北村小松

「神典」その他

川原次吉郎

「生きる力」等

隅田保

「新しき糧」等

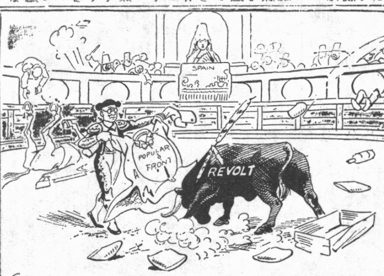
川路柳虹

珍無類の傑作

淺見仙太郎

十一月の雜誌瞥見

佳谷悦治



たけり立つ猛牛　スペイン動亂は依然鎮靜せず人民戰線にたけり立つ鬪牛を觀衆までが持てあまし始めた　―デイリー・エクスプレス紙から―

すばらしい品　よい品　藤田化粧品店　新京極

京大共濟部指定　大黑屋洋服店

呼吸器病科　京都保養院　富田精

隨筆の秋　滋味豐かな名品を贈る　目錄送呈　白水社　東京市神田駿河台通　振替東京二四一七六　電話神田三九九八番

九州帝國大學教授　小牧健夫著　珊瑚樹

文藻枯淡にして滋味豐かな隨筆をものする學者文人は古來必しも罕ではない。然し、淸雅な人品と高遠な和洋の學殖と三昧の詩魂が一如をなせる人に到つては、當代果して幾人かあらう。我々は隨筆集「珊瑚樹」の著者において、正に、斯の稀有な境地に住む一文人を見出すのである。獨逸文學に對する高き識見も、和漢の文藝的教養も、すべてその高雅な詩情と、人格とに燻された和やかな藝術境を釀してゐることは、この發見を裏書するものと言ひ得やう。

小二川芋錢裝幀　四六判高雅裝箱入　二七八頁　價一圓八〇錢　送料十二錢

東京帝國大學助教授　鈴木信太郎著　文學附近

佛蘭西象徴詩派の學徒として重きをなす著者が、その研究の成果二三と、研究の餘暇に文學附近を漫歩しつつものされた牧穫とを、彷徨・逍遥の三部に分ち、恰も小曲の如き風貌と情趣とをもつて構成されたのが隨筆集「文學附近」である。「彷徨」の高さは言ふを俟たぬ。「彷徨」「逍遥」は愛書家として何人の追隨をも許さぬ深い蘊蓄を窺ふべく全篇廿、夫々に佳品のみ、正に通人の名隨筆である。

內容（彷徨）コキヤアル　アポリネエルと「モナ・リザの失踪」象徴詩派研究の素材　象徴詩派（彷徨）愛書雜談　藏書隨筆　書房往來　書齋の話　本の雜談　將棋（逍遥）文學の周圍に　飽食放語　友人メンタルト　其他

高三〇八頁　定價二圓　送料二十錢

成瀨無極　無極隨筆　菊判布裝　二九〇頁　價二・三〇　送料一四

吹田順助　綠野抄　新四六判　二七〇頁　價一・二〇　送料六錢

奧津彥重　ゲーテ序論　菊判布裝　五七〇頁　價四・五〇　送料・三〇

上村清延　ゲーテ以後　菊判布裝　二九八頁　價二・三〇　送料一四

內容　沈める鐘　峠をおもふ　雨、雨、雨　夾竹桃咲く頃　綸の花　海上一月　伯林消息　紺青の夕空　ゲーテの散步　ノヴーリス斷想「ギルヘルムテル」に就て　獨逸文學夜話　ツルゲニエフのファスト論「綠蔭鈔」銀の鈴　都市の魂「あゝ玉杯」の作曲者　透谷の墓　上田敏氏の印象外十五

鈴木信太郎譯　ポエジイ　BA版十六　價五圓　送料三十錢各

辰野隆　さ・え・ら　價一圓　送八錢

りやん　え・びやん　價二圓半　送十四錢

あ・ら・かると　一圓八〇　送十二錢

中島健藏著　現代文藝論　四六判高雅裝　定價一圓半　送料十二錢

東京帝國大學講師　渡邊一夫著　筆記帖

出づべくして出でなかつた評論隨筆集がいよいよ出た。著者の旅情の流露は諸君を遠く異郷に導いて、ヴァレリイを始め多くの見知らぬ人に親しく會見するの感を懷かしめ、東邦の學徒の巴里舗石上の足取りを我がことの如く察せしめつつ、やがて十六世紀ユマニスムの森に誘つて行くであらう。

四六判三四六頁　高雅裝佛蘭西綴　價一圓八〇錢　送料十二錢

ポール・ヴァレリイ　ヴァリエテ

內藤濯著　思はざる收穫

豐島與志雄　書かれる作品

小林秀雄著　文藝評論

橫光利一著　書方草紙

化學序說　ジエー・ユ・ベルンン原著　理學博士・理工學士等共譯　菊判布裝全一冊　正價四圓也　送料一十一錢　出版元　東京市中町番町六　叢華房

三光堂時計店　京都帝大・三高共濟部指定

他其・文論業卒・文論位學　タイプライター引受　膽寫版印刷　吉田下阿達町二八・川本堂　電話上四五三七番

實用時計　堅牢デ正確デ一生使ヘル　オメガー（五拾圓位ヨリ百五拾圓マデ）エルジン（參拾五圓ヨリ百圓マデ）　京都帝大購買組合指定時計店　增田屋　三條店　三條烏丸角　電本3015　四條店　四條繁榮街三丁目（舊四條數屋町東入）電本2478

講義プリント　謄寫印刷　京都帝國大學北門前　黎明社　電話上四六二三番　振替大阪六四〇六七番

カメラと要品・技術全般　上田寫眞器店　熊野神社前北　電上三四一六番

營業品目　處方調劑、藥品全般　醫療器具、內外化粧品　滋養强壯劑、洋酒罐詰

拜啓毎々格別の御引立に預り厚く御禮申上候　今回店舖一部改造中の處漸く完成仕候保健衞生の爲め良品充實をモットーに益々御期待に添ふべく努力可致候間何卒此上とも倍舊御愛顧御利用仰ぎ度奉希上候

一、市價の五步引
二、御註文は迅速に御屆け致します
三、些少に不拘御利用願上ます

◇新裝の東山藥局◇

東山藥局　東山線丸太町南入（熊野神社電停前）　電話上三一四〇番

代議員選擧は十九・廿日の兩日
全有權者は一人ももれず清き一票を投ぜよ

昭和十二年學友會代議員選擧は來る十九(木)、二十(金)の兩日午前九時から午後四時まで各學部事務室で投票を行ひ、これを學友會事務室に集めて、同日午後五時、同所で開票することになつた、有權者は一人も殘らず清き一票を投票すべきである

選擧に關する注意

一、代議員は各學部正會員中より之を選擧す、定員左の如し
▼法十一名▲醫五名▼工六名▼文五名▼理五名▼經八名▼農五名▼計四十五名
二、選擧正會員(會費未納者を除く)の記名單記投票による
三、選擧投票は學友會所定の投票用紙を用ひ、選擧人の自署捺印を要す
四、投票用紙は投票場に於て交付す

運動に關する注意

一、選擧運動は十一月十三日より開始すべきこと
二、立候補屆出は十一月十八日午後四時までとし、屆出なきものは無效とす
三、選擧用ポスターは候補者一名に附七枚以下とし、候補者の姓名、所屬學部、推薦者名以外は記入せざること
四、ポスターは白紙に二色までとし、寸法は二尺四方を限り、學生課の許可を受くべきこと
五、ポスターは本學所定の掲示場においてのみ之を許す
六、スローガン記入の名刺、端書類は之を禁ず

來る七日の講演「北支問題」を皮切に
愈々活氣づく―京大滿蒙研究會

京大滿蒙研究會では來る七日(土)午後一時から三時まで法經第一教室で學內講演會を開催、前支那駐屯軍參謀、現京都聯隊區司令官石井少佐の"北支問題"と題する講演を聽くこととなつたが、同講演は教練特別講義に當てられることとなつてゐる、聽講學生は出席票(用紙は入口で交附)を提出されたいと、なほ京大滿蒙研究會は昭和八年に組織された滿洲産業建設學徒研究團に參加した本學々生を中心として、學生有志および學內關係者の間に、滿蒙に關する研究およびその發表機關として設立されたものであるが、學內講演會は、同研究會が去る十月七日第一回總會を開いて綱領、目的、會則、役員等を決定した際、事業の一つとして決定したもので、この學內講演會の外、同研究會で行はれる事業としては

一、相互研究會竝びに研究發表會、二、滿、蒙、露語その他外國語の講習會、三、社會施設見學、四、滿洲派遣學徒研究團(至誠會)關係事業

等があげられてをり、相互研究會にだては滿蒙研究班、亞細亞研究班および國防研究班の三班により左の事項について研究が行はれることになつてゐる

一、滿洲事變の意義、二、滿洲國建國ならびに建國精神、三、日滿不可分關係、四、滿洲國政治組織一般、五、滿洲國經濟建設及び産業資源問題、六、滿洲の自然的事情、七、滿洲國社會事情および民族問題、八、滿洲國文化方面、九、內外蒙古事情(以上滿蒙研究班)十、三民主義十一、ツラン民族問題、十二、支那國民性、十三、英國三植民政策(以上亞細亞研究班)十四、太平洋問題、十五、ソ聯邦國內事情、十六、北支問題、十七、國內軍工業統制問題、十八、資源問題、十九、列國軍備再檢討、廿、國家總動員問題(以上國防研究班)

事務所は物理舊館二階

なほ同研究會の事務室は當分舊物理學教室二階北側に置かれてゐるから、入會希望者は同所まで來られたいと

文學部の秋季旅行
詳細きまる

前號既報＝來る六日(金)七日(土)の兩日に行はれる文學部學友會の秋季旅行の詳細は次の如く決定した

△六日(金)午前七時十分、京都驛前集合、同七時三十九分、京都驛發、午後一時四十九分、大聖寺驛着、電車を利用して山中溫泉へ、午後六時、旅館[illegible]で大懇親會開催、同館宿泊
△七日(土)朝食後解散

なほ會員の會費は一圓、六日と七日は授業を休止して晴雨を論ぜず決行する、歸途の旅費は二割引で二圓五十錢、六日と七日の晝食は自辨、解散後は左の如き見學、遊覽場所を訪問し得る便宜がある

芦原溫泉、東尋坊、永平寺、山代溫泉、片山津溫泉

有馬から六甲へ旅行
農學部四明會は

農學部四明會の秋季旅行は來る七(土)八(日)の二日を利用して有馬六甲方面に決定した、七日午後一時十五分までに京阪四條大宮驛前に集合の上、箕面、寶塚を經てその日は武田尾溫泉に宿泊、翌八日は午前六時五十五分武田尾出發、有馬を經て六甲登山を行ひ、頂上で晝食、歸路はケーブルで下山して六甲道から大阪に至り解散する豫定で、會費は二圓、參加希望者は明六日正午までに各科委員まで申込み、旅行參加證を受取られたいと

相つぐ學內大會
秋晴をめざして

野球

學友會野球部では例年の如く學內高校別對抗軟式野球大會を來る九日(月)より約一週間の豫定で開催することとなつた、參加資格は各高校代表一チームに限られてゐるが、參加希望チームは七日(土)正午までに學友會事務室まで申込むこと、なほ詳細は學友會事務室で尋ねられたいと

庭球

學友會庭球部主催第二回學內軟式庭球大會は來る二十二日(日)雨天の際は二十三日(新嘗祭)―午前九時から本學コートで擧行されることになつた、參加希望者は十七日(火)までに學友會事務室に申込まれたいと

五周年を迎へた學生食堂の現況
賣上げ一日四百五十圓

本學共濟部直營學生食堂は創設以來こゝに五周年を迎へさる九月十五日落成せる新館に移轉して事業を繼續してゐる、同食堂は昭和六年一月ウドン部を設けることによつて誕生し、同年十二月舊食堂に移轉、翌七年六月農學部と醫學部にブランチを設けたが、昭和九年六月看護婦寄宿舍建設の敷地入用の理由で醫學部食堂は廢止せられ現在本部食堂と農學部食堂の二つであるが、現況の大要は……

營業品目

▼朝食十錢▼晝夕食十五錢▼特別定食およびランチ二十錢▼肉丼十錢▼ドンブリ、卵丼十五錢▼キツネ丼十錢▼ウドン、ソバ、パン、ミルク、コーヒー、紅茶、ソーダ水、ケーキ、ライス五錢均一▼フルーツ十錢▼卵時價▼お茶漬七錢

營業時間

午前七時から午後六時まで、集會宴會は午後十時まで(二階喫茶室で)

出る數(一日)

▼朝食本部約五〇〇、農學部四〇〇▼晝食本部七〇〇、農三五〇▼夕食本部四〇〇、農二〇〇▼ランチ二〇〇▼特別定食一五〇▼ドンブリ二五〇▼ウドン二〇〇▼喫茶部本部三〇〇、農一〇〇

賣上げ(一日)

▼本部三二〇圓、農一三〇圓、一ヶ月賣上げ最高は六月の一萬四千圓一ヶ年十萬圓程度であり利益金殆んどなく收支償ふ月別は二月五月六月十月十一月で他月は缺損を示してゐる

美術展をはる

美術の秋を迎へて十月卅日から四日間岡崎美術館で開いた學友會美術部の繪畫展は連日滿都の人氣をあつめて入場者多數、盛會裡に二日閉會した(寫眞は展覽會場の一部)

わがラグビー法政に快勝す

本學對法政大學のラグビー試合は去る一日午後三時から甲子園南運動場で川本氏レフリーのもとに本學の先蹴に開始、法政無力にて本學に抗し得ず二十七對零で零敗した、法政は關東にあつて常に强敵の間にもまれ試合經驗の點では本學に勝り、その出足早きチャージはさすがとうなづかされるが本學のハーフの缺陷にも拘らず遂に無得點に終り、そのプレイには何等見るべきものなく、本學のフォワードの蹂躪に委された感があつた、同法政が去日東京で明治大學に百十五對零の大敗を喫せるに鑑みれば本學の實力の奈邊にあるか〻一考される

甲寅會の運動會
建築科―優勝す

甲寅會ではさる十月卅一日農學部グラウンドで運動會を開催、參會者、應援多數を得て快く晴れわたつた秋の空のもと心ゆくまで若人の力を躍動させた、種目は左の通りであつたが、この外に二人三脚一人一脚等の餘興レースもあり、會から茶菓の饗應等あつてなかなかの盛會であつた、最後の各科對抗リレーは應募チーム少く採冶、建築の二チームが優勝を爭つたが採冶斷然離して悠々一着、タイムは一分五〇秒八であつた、しかし他の競技では建築群をぬき、結局次の得點で優勝した

建築四九点、採冶三八点、機械三二点、電機二九点、土木六点、化學〇

當日の記錄左の如し

百米 中井(機)一三・〇秒
四百米 宮島(電)六二・〇秒
千五百米 由井(採冶)五分二七・〇秒
八百米リレー 採冶チーム 一分五〇・八秒
走高跳 增田(建)一・五五米
走幅跳 中井(機)五・六二米
砲丸投 森田(建)九・六一米
圓盤投 中井(機)二二・六〇米

映畫を見せて
ヒユツテ建設資金をつのる
スキー部の催し

長野縣志賀高原にヒユツテを建設するため今春から積極的に獨立で基金募集に從事してゐる學友會スキー部では、スキー・シーズンを前にして再び基金募集映畫會を左記要項で開催することとなつた

△日時 十一月二十一日(土)正午より三回
△場所 京都朝日會館
△上演映畫 "夢見る唇""モスコーの一夜""銀界の彌次喜多"

なほ入場料は四十五錢均一で、三省堂書店で發賣する

動植物教室の記念寫眞展
七日午後開く

既報＝理學部動植物學教室の新館移轉記念寫眞展覽會は三十餘點の出品があつたので、いよいよ來る七日(土)正午から午後五時まで、同教室二階廊下に陳列して學內同好者の觀覽に供することになつた

秋！若人は躍る
―廿日迄の各部スケジュール―

秋もやゝ更けて朝夕の風は冬近きをしのばせる冷やかさである、例年になく早くからわき起つた就職戰線の渦卷は、一抹の哀愁と焦燥とを漂はせて、荒涼の冬の空にも似たる感傷を若人の胸に秘めしめてゐるであらう、しかし秋風はそんな憂鬱をそ知らぬ顔にスポーツマンの心を躍らせずにはおかない、グラウンドには色とりどりのユニホームのスポーツマンが楕球、圓球を中にまろび會ふ、時は秋！試みに本學運動部二十日までのスケジュールを記せば……

ラグビー部 門鐵、關西クラブ、鮮鐵、法政と打ち續き輕く一蹴した本學ラグビー部は難點とされてゐるハーフ團パック陣の充實に之れつとめ群星またたく夕闇の中に楕球を追ひ廻してゐるラガーの胸には唯制覇の思ひあるのみであらう、來る八日は東都學生の名門立教大學との對戰、十五日は對立命大の一戰が豫定されてゐる

ホツケー部 去年全日本選手權大會で東商大に惜敗し一躍名をなした本學ホッケー部は再び制覇へと精進をつゞけてゐる、近來頓に擡頭して來た關大の爲に奮つて欲しい

蹴球部 過日神戸高商を破つた同部が三日神商大に五對三のスコアで敗れ去つたことは過去の同部を知る者に異常の感慨を與へたことであらう、かつては關西において無敵の名をほしいまゝにした同部にも秋が來たのであらうか、奮起せよ！而して來る十五日の關西學院との一戰には是が非でも勝つて欲しい

[illegible] は不覺の敗戰を喫したが實力に格段の相違あることは否めない事實であり、關西の王座を再び奪回することは易々たることであらう、過日神商大には八對二で大勝してゐるが之におごることなく只管技術的にも精神的にも最強の布陣設計へと努力を續けてゐる、同部のスケジュールは八日對三高戰、十五日對關大戰と決定してゐる

籠球部 オリンピック選手松井君を擁する同部の強味は斷然たるものがあり、過日の對東大戰には一勝一敗の好成績を收めてゐるが關西學生リーグの成績は餘り良好とは云へない樣である、來る十四、十五の兩日の對神戸高商との試合には勿論輕くこれを一蹴することと思ふ

卓球部 十二日對同大戰、十五日京都學生選手權

排球部 十五日排球定期リーグ戰

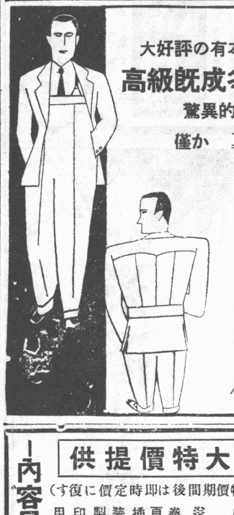
アイスホッケー部 新興の同部も今やかゞやかしき戰績と共に老巧へ入らんとする過渡期にある、創成期の精神力がともすれば忘れ勝ちになり技巧に走らんとする傾向の見ゆることは遺憾であるが、前途ある同部のため今後の精進を祈る、十六日關西リーグ戰がある

志賀高原行
大野久磨夫

長野驛に下車して長野電鐵に乘換へ終點の湯田中まで約一時間、そこからバスで古くから有名な澁安代等の溫泉場を過ぎ二十分で上林ホテルに着く。ホテルは山の上と云ふ三層樓で長野電鐵の經營、萬人風呂あり、十米、三十米の溫泉プールあり氣持のいゝ親切なホテルで、此處が志賀高原への門戸である。神津社長の斡旋で高原第一の山男次郎松翁と社員をつけて貰ひ同行の飯田長野縣社會教育主事等一行と志賀高原へヒユッテ建設候補地を見に行くことにした。今度京都ホテルが經營する國際觀光ホテルが高原に建つため、自動車道路が出來てゐるので一行は自動車で行つたが、非常な難路で途に自動車は泥中に埋まり、進退出來なくなり折から來たトラックと人夫數十人で僅かに後退が出來た程の惡路であるため、遂に車を捨てて徒歩で上ることにした。未完成の道路を延々として上り行けば折から紅葉は最盛りで、遙か北アルプスは既に白皚々の初雪を冠り王者の列の如くに聳え立つてゐる、旭山の裾を縫ふて昇りつめると琵琶池に出る、此池畔に宏壯なホテルが今や建築最中で鑿や槌の音は谷間にこだまし、骨組だけ出來た大きな家が秋の空に毅然と立つてゐるのも嬉しい。琵琶池の上に丸池があり今は水力電氣の貯水池になつてゐる。この池の上に電鐵經營の丸池ヒユッテがあり、次郎松翁は此處に住んでゐる山男である。靜寂な山氣は身にしみて山靈と云ふある魔物に吸ひ込まれるやうな氣がする。その又山手に社長の神津ヒユッテと麻生君のヒユッテがあり皆次郎松翁が監理してゐるとのことだ。麻生ヒユッテで辨當を食つて此處を本據に發哺溫泉の方から、熊ノ湯方面まで次郎松翁を東道に沼に足を沒し、丘に上り溪に下つて候補地を見つける。當日學生委員の大森君が神津社長の指命で候補地とした所が矢張り一番水の便もよく便利でもあると思つた。然し出來れば神津ヒユッテを寄附して貰ふが甚だ虫の善い話だが第一の策と思ひ親友の近藤知事に交渉方を依賴しておいた。要するに志賀高原は世界的のスキー場となり、湖沼の多いことゝ森林美は雄大秀麗の大自然境と共に學生の合宿には適所と思ふ、然も熊の湯から横手山の中腹迴峠を越えて草津溫泉に行くコースと、笠岳を越えて山田溫泉に行くコースは學生の足には以て來いのスキーツーアである、今度ヒユッテ建設に關し長野電鐵の神津社長、田中議長を始め縣の近藤知事、田中總務部長、八田經濟部長、飯田社會教育主事等の心からの御援助を感謝し一日も早くその建設を實現する次第である(寫眞は志賀高原から日本アルプスを望む)

關西リーグ
神商大に快勝

關西學生ホッケーリーグ戰は去る一日より開始され、本學は神商大と戰ひ8―2で先づ第一戰に快勝した、本學は春季リーグ戰に關大に敗れて覇權を逸したが、今秋は全日本選手權大會の地方豫選を兼ねてゐることとて、是が非でも關大を破つて再度全日本制覇に向つて猛進しなければならないと意氣ごんでゐる



大好評の有本仕立　五日――十日
高級既成冬オーバ賣盡しデー
驚異的破格値段！
僅か ￥9.50ヨリ
(英國製ラクダメルトン地)
壹百點限り
制服も有本で！
￥20.00ヨリ
百万ベン アリモト

●新刊雜誌書籍の御用は帝大前 富貴堂へ●

洛北の秋深し
觀楓とハイキング
比叡山、八瀬大原
鞍馬山
高雄、愛宕
◇觀楓電車大增發◇

叡山電車
鞍馬電車

流行の最前線を承る
上木堂の
特賣週間

月	火	水	木	金	土	日	月
9	10	11	12	13	14	15	

御誂値
大バ冬服
百萬遍
上木堂洋服店
電上3971

好評如湧　一時品切の處增刷出來

◎我土木界待望久しき本邦空前の快著遂に成る!!

監修 前內務技監 工學博士 中川吉造先生
前鐵道技官 工學博士 久保田敬一先生
★ 土木工學ポケットブック編纂會編纂 全國書店發賣

土木工學ポケットブック

東京帝大・內務・鐵道兩省等に於ける斯道の大家七十一名の綜合著作に成れる本書の壯觀を見よ!!

官衙・公署・學校・工場・會社
技術家及び其の他あらゆる
必備不朽の大寶典 鐵道關係者必讀

大特價提供
(特價期間後は即時定價に復す)
特價 金拾六圓 (定價 金貳拾圓)
送料 內地 四拾五錢 其他 七拾五錢
卷數 上下二卷(分賣セズ)
頁數 特殊判約四千頁
挿圖 四千五百餘個
裝幀 堅牢・優雅
製本 最上總革洋裝 天金・背革金文字
印刷 六號六ポ活字 高級活版印刷
用紙 特製最上印刷紙

―內容見本進呈―

東京市神田區神保町二丁目十番地
山海堂出版部
振替東京一六一九一番・電話九段(33)一三〇一番

文學と大衆

上泉秀信

文學と大衆——私が新聞社にゐて文學方面の仕事を擔當してゐるので、こんな題目を課されたのだらう。新聞はいふまでもなく大衆相手のものだし、その中にゐて文學を扱つてゐるとすれば、文學と大衆の結び附きについても多少は考へてゐるだらう。どんな程度のことを考へてゐるのか？つまり私にすればこの題目について書くことは何だかメンタルテストをされてゐるやうなもので辛い。

そこで、「文學と大衆」では、餘りに漠としてゐて、何處から書いて行つてよいのか迷はざるを得ないではないか。文學を主にして大衆を考へるのと、大衆を主にして文學を考へるのと、同じことのやうでゐて、實は決してさうではないのだ。第一、文學といつても小說戲曲の類から短歌俳句の類に至るまで澤山の種類があるし、大衆といつても、知識程度の高いものから低い者へ、それに老若男女の別もあらうし、これらを一切含めた大衆などといふものゝ正體は誠に捕捉し難いものなのだ。この兩者をどんな風に結び附けて考へたらよいのか、私自身、これは職業でこゝに問題にするのではなく日常の新聞の仕事の上でも絶えず惱みの種なのだ。便宜上私の仕事について言ふならば、新聞に掲載する小說の作者を選擇する場合において、先づ私は此の問題に直面するのだ。新聞社側からの私への注文は、大衆的で面白いものを選べと言ふ。これはいつも變りはない。大衆と言つてもピンからキリまであり、唯「面白い」と言はれても、何を讀者は面白いと感ずるのか、千差萬別の讀者の嗜好や趣味を一つのものにして考へることなどは人間業では出來る筈のものではないのだ。それにも拘らず厳然として「大衆」はある。「面白さ」もある。そして、さういふ要求に應ずる小說といふやうなものも、幸か不幸か、決して無いといふ譯ではないのだから一層難かしくなる。唯これを理屈で說明することが困難なのだ。

誰だつて菊池寛の小說が大衆受けのすることは知つてゐるだらうと思ふ。某新聞社の人の話では、現代における大衆の標準（妙な言葉だが）は菊池寛を以て限界とするさうだ。菊池よりも藝術的になつては最早大衆の嗜好に投ずることは出來ないといふのだ。横光利一でも、岸田國士でも、尾崎士郎でも、山本有三でも、やはり落第組だといふのだ。これが眞實か何うかは知らないが、兎も角もその邊に所謂大衆線のあることについては衆目の一致する所であらう。

鳥渡心ある人々なら、大衆のこの甘さ加減には嫌氣がさすかも知れないが、文學に對して大衆の求めてゐるものは、高貴な藝術性や思想性ではない。映畫のファンが映畫に打込むやうに、芝居や寄席の觀客が俳優や藝人の藝を樂しむやうに、やはり文學に對しても娛樂を求めてゐるのが大衆なのだ。その邊の要求だけを目當てにして興つたのが所謂大衆文學でもあるのだ。

ところで、こゝで問題になるのは大衆の要求が娛樂であるとしても文學者はこの要求に應ずるだけでよいか何うかといふことだ。それ以上のものは、大衆にとつては餘計なもので迷惑か何うかといふことだ。大衆の要求を主として考へると、それで充分事足りることになるが、若しも反對に文學を主として考へるならば、文學はそのやうな卑俗性だけを身上にしてゐては斷じて發展するものではなく、從つて文學者もまた、そのやうなことで滿足する道理はない。作家の自負心が許さぬとて憤りを感ずる者だつてあるだらう。

かつてプロレタリア文學運動の旺んだつた頃、如何にしてその文學を大衆の中に持ち込んだらよいかが、仲間うちの問題になつたことがあつた。その時には確か文學の大衆化を目指していろ／＼の試みが行はれたと記憶するが、この大衆化運動は結局は文學の質を低下させることに終つたやうであつた。現在では寧ろこの運動を逆に行つた方がよいのではないか。大衆の嗜好や趣味性を向上させることによつて讀者大衆の文學に對する理解を深めるやうにするのだ。現代のヂヤアナリズムの上で最も缺けてゐるのはこの種の努力だ。他の部門においては意識的に讀者大衆を教導してゐながら、この方面においてだけ低俗化を心掛けるといふ心理には、ヂヤアナリズム自體の發展と矛盾したものがあるのではないか。嘗ては夏目漱石の小說を載せて來た新聞が、順次その水準を落して來てゐるといふ事實が明かにそれを語つてゐる。だが一方、作家自身においても作品の藝術性を薄めることなしに大衆層に働きかけるやうな作品を創作するといふ努力をしてゐない。ヂヤアナリジムの卑俗な要求に副ふかでなければ獨り高くとまつて、藝術小說は所詮は大衆には無緣のもの、選ばれた少數者だけのもの、といふやうな態度で昔ながらの文人氣質の殼の中にゐる。大衆の中に入つて、作家も亦文化的な役割を果さなければならないといふ藝術家的氣魄には缺けてゐるのだ。

今後、この問題はヂヤアナリストと作家との自覺によつて、必ず解決される日のあることを、私は信じて疑はない。

馬 な ら ぶ （文展洋畫） 南政善

フォルストの最も新しい消息

中西武夫

「未完成交響樂」「たそがれの維納」「マズルカ」につゞいて、才人ウイリイ・フォルストの第四作は「アロトリア・デア・リイベ」（愛の戲れ事）といふ喜劇映畫である。この映畫は、グロリア・パラストで封切られたが、果して大成功で、觀客の歡呼は街路までつづき、フォルストも俳優達も、拍手の嵐にもみ拔かれたといふことだ。批評家の言葉を引いて見ても、この作品こそ獨乙の喜劇映畫の新しい未來を示すものだと言ふ一致した意見だ「のびのびした明朗な演技が展開されてゐる」「我々はもうアメリカ映畫を見る必要はなくなつた！」獨乙の批評家は、興奮してから言つてゐる

この映畫の內容であるが、それは別に新鮮なものとは言へないらしい。「マズルカ」がありきたりの母性愛悲劇であり乍ら、づば拔けた手法で、見る人々の心を奪つたと同樣である

イエニイ・ユウゴオとハインツ・リユーマンの一組と、ルナーテ・ミユーラーとアドルフ・ヴオールブリユックの一組、この二組の戀人達が「戲れ事」の主人公である。彼等は古めかしい戀人達である、すぐ涙を流す、熱いキッスをするかと思ふと辛辣な皮肉を言ひあふ、それから後悔して抱擁する、といつた具合の「戲れ事」を繰り返すのである。フロックや夜會服のハルレキンの出る芝居、スポーツやニツカア・ボツカアを着た羊飼ひ芝居（十六世紀十七世紀にイタリーやフランスで演じられた田園調牧歌調の芝居）まぢめな對象を級ひ作ら揶揄した荒唐無稽の茶番劇、戀人達を陶醉させる甘い魔樂であり、懷疑家にとつてはちよつぴり苦いカクテールとなり、胸ときめかす人々のために泡立つセクト酒となる。これら凡ての要素を併せもつ映畫が、この「愛の戲れ事」といはれる

笑ひころげる、踊り狂ふ、泣きわめく、飽くことなく接吻する「眞夏の夜の夢」のやうに愛人を間違へる騷ぎ、だがこの日常茶飯事の中にひそむ、本質的に重大な事柄が、フォルストの鋭い觀察力で射通されてゐる「ウイリ・フォルストは、諸君の又私達の秘密のヴエールを剝ぎとつて了つた。彼の監督手腕は、我々のまじめを粧つた小さい愚行を、巧妙に、我々の眼前に再現させて、我々の魂を奪つた。我々はこの映畫を見て笑つた、が我々自身を本當は笑つてゐるのだ」「八時夕刊」の批評家は、恐しさうにから言つてゐる

「愛の戲れ事」のウイリ・フォルストの新しい手法が色々と語られてゐる。紹介文だけでは明瞭でないが、臺詞が過剩になるのを妨ぐ新しい手段として、畫面で敍述させてゐる。女に欺かれた或る男が復讐を誇張した言葉で語る時、畫の技巧を使用してその考へを表現させてゐる。又「戲れ事」の臺詞全體が大聲で喋るやうな處は全然無い、自然で、滑らかで、ゆつくりと、輝いたやうな光を帶びた、好調子であると言ふ

カメラは、自由奔放を極めたもので、例へば風速十一米の波浪の中を進み、階段を昇り、家の扉まで長く移動し、モンテ・カルロの自動車競走にまで及んでゐる。カメラは、テッド・パーレ、ウエルナ・ボーレの二人である

俳優は、前記四人が主役を演じてゐるが、俳優とは思はれぬ、演技とは信じられぬ自然さで演じられてゐる。殊にハインツ・リユーマンは、慘めな儉約の有樣、こす辛い笑ひ聲、窒息した叫び方、素晴らしい限りだといふことだ

秀れた喜劇役者であつたフォルストは、最初の喜劇映畫の制作に見事に成功したのであつた

現在フォルストは、更に次の作品「ブルグ劇場」の撮影中である。九月十九日附の獨乙紙によると、彼は今ブルグ劇場での撮影を行つてゐる。ウインのブルグ劇場、あの世界的な劇場、獨乙演劇史に不朽の名を殘してゐる傳統に輝く舞臺、一世紀以上も獨乙の俳優達の魂を結びつけた劇場、何代もの間俳優達の最高目標となつてゐた舞臺、そしてそれを取卷いてゐる人人、シユレーダアから、カール・フオン・ラ・ロッへ、カインツ、ミツタアヴルツアから、バウル・ハルトマン、ウエルナア・クラウス、ソフイ・シユレーデル、ステラ・オーフエンフエルス、シヤロッテ・ヴオルタア、ジヨセフイヌ・ヴエセリイ、パウラ・ヴエセリイ達。フォルストは、この光輝あるブルグ劇場と、俳優達の運命を新しい映畫の中に描かうとしてゐる

ウエルナア・クラウスの扮したフリイドリヒ・ミツテラアが、舞臺に立つて「ファウスト」の有名なモノローグを述べてゐる。觀客席は滿員だ。今日のブルグ劇場は、だがいつもと違ふ。照明のランプが明るく、老いたるファウストのマスクと衣裳のフリイドリヒ・ミテラア（ウエルナア・クラウス）を照し出してゐる。觀客席の第一列から最後列まで、移動車のカメラが動いてゐる。觀客は、ウインが愛し尊敬する老優ミテラアに聞きとれて、深い沈默におちてゐる

フリイドリヒ・ミテラアは不思議な俳優であつた。ウインの藝術家の集まるカフエ・デブナアにも訪れず、一八九七年のウイン社交界の大夜會にさへ姿を現さなかつた。彼は夜、ブルグ劇場に來り、舞臺に立ち、又靜かに裏口から歸つて行つた。俳優ミテラアは、驚異であり、人間ミテラアはウイン人にとつて一つの謎であつた

勿論彼も人間であり、或る事件で人生の軌道外へ投げやられた老いたる人間に過ぎなかつた

舞臺の父、藝術の偉人、榮光と秘密に包まれたこの偉大な人物も、疲れた、老人であるのだ。カメラは前進し後退し、聽てウエルナア・クラウスのクローズアップが撮影される。この巨人の臺詞と演技に、俳優達は聞きとれる。この「ブルグ劇場」の撮影は、稀に見る感激的な光景であるやうだ。ウイリイ・フォルストは、非常に眞實をもつて働いてゐるらしい。才人フォルストより、むしろ敬虔なる眞實な態度であるらしい

オルガチエオバがゼエバツハ男爵夫人、ハンス・モーゼルがゼーデルマイカーに、ウイリイ・アイヒベルガアがジヨセフ・カイナーに、ホルテンゼ・ラキイがレニ・シンドラアに扮してゐる

京都市及び近傍の地名（上）

杉村正治郎

一、文字からは讀めない

第一例——先づ、同じく「田」といふ字でありながら、或る場合には「デン」と音讀し、又他の場合には「タ」と訓讀して、しかも其の間に何ら法則性がないといふことを例示しよう。上賀茂葵田町（上京區上賀茂學區）、田中關田町（左京區養正學區）、上高野東田町（左京區上高野學區）、上鳥羽鴨田（同上）、川島寺田町（右京區川岡學區）、川島莚田町（同上）等は、悉く「田」の字を「デン」と音讀してゐるがしかも「田」の上の字は、「アフヒ」「セキ」「ワラ（ン）」「カモ（ン）」「テラ」「ムシロ」——と悉く訓讀である。一法、松ケ崎正田町（左京區松ケ崎學區）、山端大城田町（左京區修學院學區）、花園一條田町（右京區花園學區）、太秦大藪御所田町（右京區太秦學區）、山科御領田町（東山區勸修學區）、神田（乙訓郡久世村）、正田（乙訓郡向日町）等は悉く、上下共音讀で、「シヤウデン」「ダイジヤウデン」「イチデウデン」「ゴリヤウデン」「ゴショデン」「ジンデン」「シヨウデン」等と讀んでゐる。「田」を「タ」と訓讀する場合にも、その上の字は訓音區々であつて、西賀茂上庄田町（上京區大宮學區）、修學院千万田町（左京區修學院學區）、山田久田町（右京區松尾學區）等は音讀して、「カミシヤウダ」「センマンダ」「クダ」と讀んでゐるが、一乘寺松田町（左京區修學院學區）の如きは、訓讀して「マツダ」と言つてゐる。

之を要するに、「田」の字を「デン」と音讀するか、「タ」と訓讀するかは、その上にくる字が音讀か訓讀かによるのでは全然なく、地名の讀方においては、重箱讀の如きは平氣である。さればとて勿論、地名は重箱讀すると定つたわけでもない。

今一つ考へられるのは、所によつて或は「デン」と音讀し、或は「タ」と訓讀するのではないかといふことであるが、同じく愛宕郡岩倉村に屬しながら、籔田は「ヤブタ」と訓讀し、川原田は「カハラデン」と音讀する所をみると、さうでもなからう。

第二例——同樣のことが「殿」についても言へる。今度は「殿」の上の字は悉く「泉」で、「イヅミ」と訓讀されてゐるのであるがその下の「殿」は、或は「デン」であり、或は「トノ」である。即ち鳴瀧泉殿町（右京區花園學區）の場合は「デン」、修學院泉殿町（左京區修學院學區）及び吉田泉殿町（左京區錦林學區）等においては「トノ」である。

第三例——「町」についても同樣のことが言へる。最も對照的なのは、梅津南町（右京區梅津學區）と梅津北町（同上）とであつて、前者は「ミナミマチ」であるのに、後者は「キタンチョ」である。通りの名についてもこのことは言へる。室町通、士屋町通、木屋町通、竹屋町通等においては悉く「町」の字を「マチ」と訓讀してゐるが車屋町通、釜座町通、花屋町通等においては皆、「チヤウ」と音讀であり、しかもその間において、如何なる場合に音讀であり、又他の如何なる場合に訓讀であるのか——全然見當がつかない。強ひて言へば、言ひ慣はしといふより仕方がない。

第四例——同じく通名において「トミ」小路通、油小路通等は、「トミノコウヂドホリ」「アブラノコウヂドホリ」と「ノ」の字を入れるが、押小路通の如きは「ノ」を入れず、「オシコウヂドホリ」と讀んでゐる。

第五例——「堅町」も、高臺院堅町（位置失念）、下堅町（上京區仁和學區）、東堅町（同上）等においては、「タテチヤウ」であるが、御室堅町（右京區花園學區）においては「タツマチ」である。

第六例——同じく「上野」の字を用ひながら、東山區山階學區及び乙訓郡大原野村等においては、「ウヘノ」であり、右京區桂學區においては「カミノ」である。

第七例——次には常識を以てしては讀めないといふことを例示しよう。その中で相當著名なのは、久世郡御牧村の「一口」であつて、これは「ヒトクチ」でも「イチノクチ」でもなく、「イモアラヒ」である。又乙訓郡向日町の「鷄冠井」は「トサカヰ」ではなくして「カイデ」である。同町「物集女」は「モヅメ」、右京區桂學區の「上野」は、「ウヘノ」でも「カウヅケ」でもなく「カミノ」、上賀茂舟着町（上京區上賀茂學區）は「フナツキ」ではなく「フナチヤク」、一乘寺大丸町（左京區修學院學區）は「ダイマル」ではなくして「オホマル」、川島寺田町（右京區川岡學區）は「テラダ」と讀めば人名になる。神田（乙訓郡久世村）は「カンダ」ではなく「ジンデン」、上賀茂神殿町（上京區上賀茂學區）は「シンデン」ではなく「カウドノ」、上京區室町學區の上總は「カヅサ」ではなく「カミフサ」、北白川上終町（左京區北白川學區）は「カミオハリ」ではなく「カミハテ」、北白川小倉町（左京區北白川學區）小倉山（右京區嵯峨學區）等は「コクラ」ではなくして「ヲグラ」。巨椋池東畔の小倉村も恐らくさうだらう。さうかと思へば、通名、學區名等にある小川は、「ヲガハ」ではなくして「コガワ」である。祇園の先斗町が「ポント」なることは有名なもの、左京區錦林學區には新先斗町といふのがある。久田は人名では「ヒサダ」だが、山田久田町（右京區松尾學區）となると「クダ」である。右京區嵯峨學區に到ると、車折神社は「クルマヲレ」等と讀むのは名折で、「クルマザキ」と讀み、嵯峨天龍寺角倉町は「スミノクラ」、嵯峨鳥居本化野町は「バケノ」ではなく「アダシノ」である。

梯明秀氏の近業「社會起源論」を讀む

・相澤秀一

單に主觀に對立し夫れ自らの法則によつて形成變化發展しゆくものが自然であるのではなく、却つて主觀を生み主觀的自己を形成變化せしめてゆく世界が自然なのである。だから、主觀的自己の成生發展＝即ち社會てのものの成立も一つの自然史的過程でなければならぬ。「人類は四つ足で步くことを止めたときから考へることを覺えた動物である」。そして此の時から、人類の自己疎外が起る。そして此の現實の苦惱が否定すべくもない事實である以上、現代人は先づ自己が人類として此の世に生れその眞面目を發揮し得た時代を究むる必要を見るであらう。茲に社會起源の問題がある。これに答ふるものに梯明秀氏著「社會起源論」がある。自己運動にある物として絕對有にある物質の自己限定の過程が、客觀的實在の全內容の自己展開の過程として、歷史科學の把握すべき動的法則となる。從つて宇宙的自然の絕對的內容の、實現されゆく社會成生の過程は、ヘーゲル的表現によれば「宇宙的自然がその物質的自己限定によつて自己の內容を如何に外化しても他者に轉化しえなかつたところの天體的段階と、自己外化が他者に轉化した生物的段階と、物質の對自即自的存在たる社會的段階」（七一八頁）とに區分されねばならぬ。著書の第一章はかゝる意味において最も重要なるテーマを作る。宇宙的必然性における社會發生の原理的把握である。この秀れた鋭い原理を武器として、著者は具體的に人類動物の起源を、更にかゝる動物群の家族的生活群聚的生活親族的生活—一般的に言つて社會生活化への過程を、自然科學的なる研究を媒介として究明する。第二章人類動物起源論第三章社會生態起源論が專らこれに當る。既存の自然科學的業績の斷片的拔萃ではない。

自然史的過程における社會の成生—主觀が客觀を變ずるとは、西田哲學の言ふが如く主觀が客觀的になることであり、又客觀が主觀的になることである。ここに生產的な勞働—或る意味における技術が前提さる。凡そ生產的勞働が主觀の共同關係に於いて營まれる限り、そこに生產關係としての「原社會的經濟構成」が現はれる。而かも此の生產關係は親族關係として現はれる。「物質的生活の再生產の偶然性が必然化され、組織化され、永續化されるために親族制度が必要であつたのである……こゝにまた眞に人間的な勞働が成立するのである」（二六五頁）而かも此の親族關係は一方において自然的關係であるとともに、他方において社會的關係である。自然法則としての自然淘汰の法則が、却つて社會經濟的法則へ自己轉化し終るところに「原社會的經濟構成」の明瞭な把握が可能となり「社會起源論」へ一つの光明を與へるものといはねばならぬ。著者は眞摯なる學的良心を以て、鋭き批判を世俗に與へ「社會起源論」といふ大きな問題への解決の一步を讀者に導いてゐる「一八〇九年に（動物哲學）を出したラマルクが陋巷に窮死（一八三〇）したのも、不遜なるキユビエの權勢に壓倒された結果であらうが、しかし亦同時にかかる時勢に眞理を摑んでしまつた彼れの運命の悲劇であらう。眞理は他人より遲れて摑むべきかに見える！」（五七頁）此の氣槪を著者に見る。伺い皮肉である。（三笠書房・唯物論全書のうち・八十錢）

丸善の新刊及重版書

門倉三能著 菊判四六四頁 挿圖二四〇圖 價六・三〇 送一三
北滿金鑛資源
外蒙古金鑛資源 新疆金鑛石油資源
新刊 北滿の曠野を實地に踏査し、諸資料を蒐め、新事實の把握に務めた著者が、新舊記錄並に經驗を基礎として著せるもの。北滿に於ける金鑛資源の一般的概念を說き、黑龍江省、吉林省の金鑛の位置、交通、沿革、地質、鑛床、採鑛、製錬、經營、集散等の槪況を敍し、且つ鑛夫用語を逐一解說して實地に役立たしめ、之等北滿金鑛の開發及將來に示唆を與へ、加之、外蒙及新疆に於ける金鑛及石油資源についてもよく明說してゐる。日滿兩國の鑛業家、經世者、資本投資者の好參考たるものである。

工學博士 永積純次郎著 菊判二三八頁 圖版二七九圖 價二円五十錢 送一四
採鑛学第四巻 鑛山用器具及機械
全訂改版 鑛山に使用せられる一般器具、機械に就いて構造、性能、用途を敍述せるもので、試錐機械、土砂浚渫機、截炭機、鑿岩機、切羽運搬機及積込機、鑛車運搬機、堅坑卷揚機、鑛山用喞筒、扇風機、空氣壓縮機等を詳細に解述し、鑛山關係の技術者及經營、計畫者の參考書として遺憾がない。この改版は最近の實狀に則り補足せられてゐるが特に國內製品の引證實例に富んで時人の要求に應じてゐる。

前橋工業學校長 佐藤吉彥著 菊判二五三頁 價一円八十錢 送一四
最新染料及顏料化學
新刊 色素に關する科學的知識を易說するもの。多年斯學の教授に携れる著者の經驗と在外研究中に得た資料を集約して體系を整へ、中等及專門學校並に染料工場に於ける初學者の敎科書及參考書としてゐる。染料編、顏料編に分け、染料並に原料の一般的知識、精製法及中間品並に各種染料を詳述し、次いで有機、無機顏料の通性を說き、各種レーキ及顏料を明說してゐる。而して附錄に關係比較表、比重表其他を揭げて實際上の參考に備へてゐる。

（發行所） 東京・日本橋通 丸善株式會社 （振替東京第五番） （支店及出張所） 東京（神田・三田・早稻田・丸ビル）大阪・京都・名古屋・横濱・福岡・仙臺・札幌・京城

カメラ各種 小型活動 在庫豐富 カメラ 御不用品 特ニ高價 即金買入
わかばや寫眞機店 京都中筋富小路・電本3924

洋樂レコードの賣買なら是非專門の當店へ!!
河原町通夷川南入 クレモナ
電話上2023振替京都897
リスト送呈高級盤特に高價買入

信用第一主義
醫科器械 理化學器械
絕對優良品
電話上③133番
株式會社 福田重商店器械部
京都市東大路近衛南入 ……帝大病院東門前……
本店 京都市 電話下22・937・1112番
東京店 京橋區寶町一丁目六 電話京橋208番
大阪店 電話北4910番
山科工場 電話醍醐2688番 鐵工場

京大共濟部指定
就職受驗寫眞 フイルム現像・燒付 大學風景寫眞
農學部前 岡本寫眞場 電上2742

東京齒科醫學士 小山正光
小山齒科醫院
市電白萬遍電停西（北側電車通） 電話上五八二五番

秋の……ピクニツクに ハイキングに 爽快たるこの風味
大倉恒吉商店吟醸

十一月一日號
國家試驗
第八卷 定價・送料 廿五錢 一二錢
◇橫領物の橫領……東大教授法學博士 牧野英一
◇大日本帝國憲法理由……法學博士 尾佐竹猛
◇憲法概念の諸問題……京大教授 黑田覺
◇民事訴訟法サブノート……東京控訴院判事 前野順一
◇取締役の地位と其の取得……法學士 野間繁
◇改正選擧法概論……法學士 島津嘉孝
◇商法重要問題解說……陸軍法務官 小川利明
◇本年高等試驗（行政・司法・五・二號・外交）問題解答 及び刑事訴訟法重要問題解答……中山榮太郎
東京市本郷區森川町 帝大正門前 育成洞 電話小石川七八一番 振替東京一七三四番

銘酒 紅葉狩は御遊山に 澤之鶴
石崎株式會社京都支店

京都帝國大學購買組合指定
炭は福知へ
品質は優良・値段は低廉 配達は迅速・せひ御用命を
京都市川端通加茂大橋下ル 薪炭問屋 福知商店 電話上七五四番

寫眞の御用は裏門●佐伯へ！

食料品・洋菓子
責任あり自信ある品を扱ふ事を誇りと致しております
ヱービーシー食料品店 吉田・農大正門前 電話上二一三三番

冬服オーバ特價提供
□質と廉價と親切を旨とする店
□高級レデーメードも豐富入荷致し居ります
マルキヤ 丸紀屋洋服店 出町筋百萬遍西入南側

製圖器と紙と文房具の店
◉百萬遍帝大裏門前に……移轉して來ました
增尾文尚堂 電話上三九二一番